

「薬局ラボ」概念アピール

血液検査が薬局でも実施可能



来場者の注目を集めた「薬局ラボ」

指先から採取した少量の血液で健康チェックしませんか。――。京都市内の展示場みやこめっせに4日、「薬局ラボ」が出現した。広島大学大学院臨床薬物

治療学研究室（森川則文教授）と、クオールグループの薬局チェーンであるティオーファーマシーが共同で設置したもの。来場者の血液をもとにHbA_{1c}など最大4項目を迅速に測定。薬剤師がその結果をもとに健康相談に応じた。

「薬局ラボ」は、クオールグループが市民や医療従事者を対象に開いた京都医療連携学会の展示ブースの一角に設営された。

来場者はカウンターで薬剤師から説明を受けた後、専用の器具で指先を自己穿刺する。指先から少量の血液を薬剤師が採取。背後に控える同研究室の学生が血液を受け取り、検査機器で迅速に測定して、結果を薬剤師に返した。

森川氏は、自己穿刺によって採取した血液を同研究室に送ってもらうことにより、薬局でも各種血液検査や薬物血中濃度を測定できる「マイクロTDM」という方法を確立。ティオーファーマシーなど各地の薬局と連携し、実際に測定を

行っている。今回は、その概念を広く一般に知ってもらうための初の試み。今後、各地の健康フェアで「薬局ラボ」を展開していく計画だ。

森川氏は「新しい薬局のあり方を訴えたい。薬局は処方箋を受け取って調剤するだけでなく、様々な測定も行える可能性のある場所と考えられる。血液の測定を行えば会話のきっかけにもなるし、『こんなこともできるのか』と患者さんが薬局や薬剤師を見る目も変わっていく。薬剤師自身の意識も変わるだろう」と話している。

森川氏は「新しい薬局のあり方を訴えたい。薬局は処方箋を受け取って調剤するだけでなく、様々な測定も行える可能性のある場所と考えられる。血液の測定を行えば会話のきっかけにもなるし、『こんなこともできるのか』と患者さんが薬局や薬剤師を見る目も変わっていく。薬剤師自身の意識も変わるだろう」と話している。